

市場整備や物流連携など議論

豊洲で生鮮流通フォーラム

パーソナル情報システム㈱（森本晋司社長）は17日、水産業界を取り巻くタイムリーな話題を提供する「第40回生鮮流通フォーラム」を東京・豊洲市場で開催し、市場整備や市場間の物流連携などの事例を取り上げたパネルディスカッションを行った。

パーソナル情報システム



第1部に参加した戎井室長（右端）、松本課長補佐（その左）、近江専務（その左）、安井取締役

る新しい設備の整った施設として、2010年に

移転・開場した石巻青果

花き地方卸売市場について説明。①荷受・分荷・

荷捌きまでの流れを効率よく行える設計②適切な

鮮度維持が可能な3温度帯管理③雨天や降雪時に

配慮した大屋根一が特徴で、東日本大震災の時も

翌日から営業を再開。三陸自動車道がすぐそばに

あることから「災害支援物資の一時中継地点になった」と述べた。

安井取締役は、富山市公設地方卸売市場の再整備について説明。市場は、

仲卸業者の荷捌き場や買荷積み込み所、冷蔵庫施設、加工施設などが卸売

場から離れて点在しているため、物流が非効率で、

温度・品質管理が不十分であるという課題を抱えていた。

そこで青果卸・仲卸業者、運送業者が事業協同

組合を設立し、各施設を集約した物流棟を整備。

場内物流の効率化や荷捌きや加工などの作業効率

が向上したほか、冷蔵庫施設の拡大により鮮度保

持や品質管理向上にもつながった経緯について説明した。

モーダルシフトをテーマに意見交換

第2部では、流通ジャーナリストの淺沼進氏を司会に、北九州市中央卸

売市場から北九州青果㈱（北九州市）の百合野博社長、横浜市中央卸売市

場から横浜丸中ホールディングス㈱（横浜市）の原田篤社長が登壇し「物流連携を中心とした市場間協業化に向けて」をテーマに意見交換した。

国土交通省の23年度「モーダルシフト等推進事業費補助金」の交付事業に「スイッチボディ物流効率化協議会」として北九州青果と横浜丸中HDが参加し、九州から関東向けにそれぞれ陸送していた青果物をフェリーで一括輸送する船舶モーダルシフトの実証実験などについて話した。

第1部では、農林水産省大臣官房新事業・食品産業部食品流通課の戎井

靖貴卸売市場室長を司会に、市場整備の実態と今後の

に、石巻青果花き地方卸売市場から㈱石巻青果

（宮城・東松島市）の近江一仁専務、富山市公設

地方卸売市場から富山中央青果㈱（富山市）の安

井豊取締役、農林水産省

から卸売市場室の松本秀

明課長補佐の3人をパネ

リストとして招き「卸売

市場整備の実態と今後の